

# らじかる



第7号

P・エルツバッハー

## 『アナキズム』によせて(2)

坂入純二

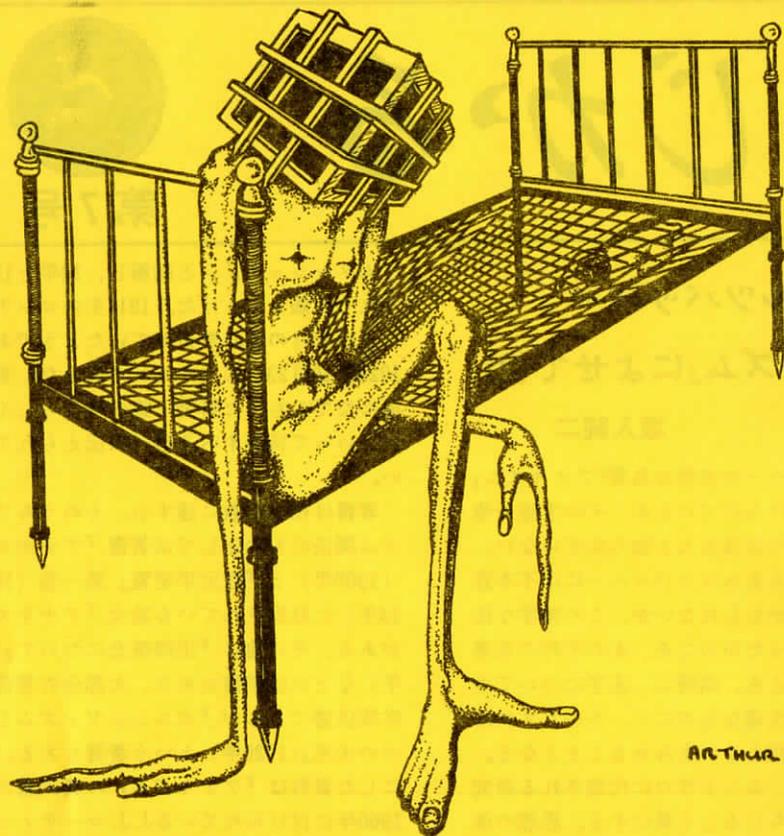
エルツバッハーの名前は名著『アナキズム』と固く結びつけられているが、その生涯や他の業績についてはほとんど知られていない。法学が専門であるエルツバッハーには不本意なことであるかもしれないが、この博学な法学の知識があったからこそ、あの不朽の名著が生まれたといえる。同時に、法学についての素養が本著を生硬なものにし、ややもすれば断章取義の様相をかいまみせることとなる。このことはM. ネットラウに代表される研究とは傾向をいちじるしく異にする。思想の体系化、深化および研究にとっては法学が、功罪なかばしつつ、それらにきわめて濃厚に投影することはマルクスとラッサール、ルカーチとコルシュ、そしてネットラウとエルツバッハーの著書を読めばすぐに理解することができよう。

ポウル・エルツバッハーについて簡単に紹介しよう。彼は1868年2月18日にドイツのケルンに生れた。父親は医学博士であったから、かなり知的な雰囲気をもった家庭に育ったと思われる。1886～89年にハイデルベルク、ライプツィヒ、シュトラスブルク、ゲッティンゲンの各大学で、89年にハレ大学で民法、一般法、哲学を修め、同大学で哲学博士の学位を取得した。89～1900年、ハレ大学で法学を講義し、95年に裁判試補、1900～06年にハレ大学の私講師をつとめた後、06年にベルリン商科大学教授となり、民法と商法を教え、死ぬまでその地位にいた。11年にエンマ・グ

リムメンシュタインと結婚し、12年と13年にそれぞれ娘をもうけた。1917年のロシア革命にもかなりの関心を寄せていたようである。1928年10月23日にベルリンで死んだ。象牙の塔にたてこもった研究一途の学者らしく、これといって特筆すべき事件は伝えられていない。

著書は相当の数に達する。そのうちアナキズム関係のものとしては著書『アナキズム』(1900年)と『政治学便覧』第一巻(1912/13年)に収録されている論文「アナキズム」がある。その他に『法律概念について』(1900年)などの法学書があり、大部分の著書は法学関係書であるが、『ボルシェヴィズムとドイツの未来』(1920年)という著書もある。(典拠にした資料は『アナキズム』の英訳書の再版1960年に付けられているJ. J. マーティンの論文、*Wer Ist's?* の1928年版の「エルツバッハー」の項である。各種人名辞典その他もかなり参照したが、記載されていないようである。

刊行されるやただちにクロボトキンやトルストイの刮目するところとなった著書『アナキズム』は、後にくわしく論ずるが、その対象から自由に論じ、推論や断定の典拠をていねいに明記し、デマゴギーを排除する記述態度を厳しく貫徹しているために(むろんこれもまた一つの党派性なのであるが)、そして著者独自のアナキズム論が直接的に展開されていないために、ともすれば著者不在の錯覚を与えかねない。今、これを補ってくれるのが論文「アナキズム」であり、前者から推測されるところであるが、著者のアナキズム観を要約すれば、著者はアナキズムの実現については否定的であり、アナキズムの意義についても消極的である。



## ある男の自分の時間

アーサー・モイゼ  
(Arthur Moise)

ニクソンと一連託生で、右派陣営にごたごたが起き、党の首領を云々するのは、英国の経済がストにつづくストでガタビシしてきたためで、英国保守党ではその無力な憤激をさしむける犠牲者を探している。電力、鉄道、各産業が停り、よろめきがちな“自由”経済戦争は、右であれ左であれ勢力を掻き集めて街を占領するどんなイデオロギーにでも屈服するようである。悲しいことだが本当の話。

長年、英国のプロレタリアートは、ドイツと日本の労働者が産業活動の手下として示されてきた。マスメディアの言うのによれば、ド

イツ人と日本人労働者は長時間、低賃銀で喜んで働き、ストライキはせず、従って雇主も親切丁寧に処遇しているとのことであった。嘘っぱちだが長い年月、おとなしいドイツ人と日本人労働者のお手下が、英国労働者の頭にしみこみ、しかも国営新聞は英国労働者階級は怠け者で我欲の張ったうすのろだとおっしゃる。

しかし西欧と東洋の天国では、経済的奇蹟の時代が終わったのだ。自由世界の労働者達は、物価の値上りと大量解雇の恐怖による、同じ不幸を分けあっている。

日本は天国だと言う代りに英国のマスメディアは今になって、東洋の生活様式の怖さを吹きこむことにきめ、私がこの一文を書いている時、チツソの化学工場がミノマタで水銀を大量に海に流して汚染したと全国的に公報しだした。全く恐ろしいことであり抗議せねばならず、この複雑な社会では、マスメディアが

かような不幸を使って労働者階級を打ちひしぐむちにする前に、つまりニンジンでは失敗で事実だけ判った段階で、パンフや刷り物が民衆の声になるのでなければいけない。それこそアナキスト運動の活動の場なんだ。

ところで私は抗議はその日にやって、ロンドンのポンド街をゆっくり歩き、カスミンのガレージ画廊でリチャード・スミスの新しい絵を見、テートで風景画を眺め、更にヘイロードへ行ってセザンヌを鑑賞し、それから…ワードのバブでビールにありついた。

—ロンドンだより—

アーサー・モイゼは1914年生れ、本年60才の男子。若くして労働者、失業者を経て戦時中は兵士としてレーダー要員となり、復員後は国立絵画館の職員の就職口を棒に振ってバスの車掌で生活費を稼ぎ、社会主義の枠組みの中に個人の自由を強調する点でアナキスト運動に入り、現在文章を書き、絵を画き、デモに出ているという。らじかるの寄稿者として、カットや文章を届けて呉れることになった。またアイデア出版ではその熱意に答え、明春彼の風刺画集の刊行を予定しています。ご期待下さい。

## エマとウーマン・リブ (4)

はしもと・よしはる

メアリーは軍人と女の共通点は“つやごと”であるとして、どちらも欲びのために生きている。それは両者ともダンスや人の集り、冒険と謎ごとが好きで表われていると指摘して、更につづける

「大きな不幸は、両者とも道徳以前に風俗を人間の本質についての偉大な理念的概略に習熟する前に、人生の知識を得ていることです。その結果は当然なこと。すなわち、ありきたりのもので満足し、偏見の餌食になり、疑わしい自分の意見を採用し、盲目的に権威に従う。だから幾らかセンスがあったとしても、それは釣合いを識別する一種本能的な眼差し

であって、風潮にあわせて取決めをする。しかも表面的なものの下にあるのを追究するか、意見を分析するのは失敗します。…権力が求めるのは盲目的な服従です。専制君主や官能主義者が女を暗がりにつなごうとするのはもっともでしょう。前者は奴隷を後者は遊び相手を求めているのです。けれど官能主義者の方が専制君主よりもっと危険です。女は恋人達によって、君主が閣僚によって欺されるように、あざむかれます。しかも自分では恋人を支配しているのだと夢みつつです。」

メアリーは返す刀で無邪気さをも切り捨てる。〈無邪気であるということは、子供の状態にとどまるのを意味するのです。〉

こうして彼女は女の弱さと無邪気さが、女の實質ではないのを証明した。シエクスピアは駄目なのである。ましてや女は個性を少しもっていない。猿よりは少しましな種属である。〉としたヨハナー・サン・スィフト（ガリバー旅行記の著者）などは彼女の髪を逆立てるのだった。そこで彼女の攻撃の対象はあの時代の思想家、官能主義者、ジャンジャック・ルソーに向けられる。

（註・私的意見では、スィフトの女性に対する優しさは貴重なものであり注目に値する（ステラへの手紙参照）またメアリーの夫になるW・ゴッドウインはアイルランド人を擁護したスィフトの政治的意見を評価し、作家としても非常に尊敬していた。）

## 逆謀述懐

櫻井 博

人間がさまざまに変貌するとき常に心の中で疑に対する誠実な追求心がはたらくものである。そもそも思索は疑いをもつことから始まり混沌としたカオスに別個の新しい世界を創造することにほかならない。

革命思想、特にアナキストの思想は、いかなる新世界をつくらなければならないかということを考える理智によって立たなければならない。アナキズムは生死の束縛に対する思考を解放する目的だけの宗教や、ましては象

## 愛と闘いに生きたエマの全貌!

### 「女性解放の悲劇」

「エマの自叙伝は闘いにたいする彼女の熱意がうかがわれるとともにアメリカ社会運動史の重要資料でもある。

第一次大戦当時、エマが「煽動者」「暗殺者」と一般の民衆から偏見の目でみられたことは彼女の闘いの生涯を物語っている。

徴哲学などではない。自己の外部で日常的に構築されている蕪雑な世界を操作している人間等は現代の魔神ともいうべきだろう。

革命運動の表われ方は「想像の表現」といえる。人間は自分の内部にさまざまな印象が吹き出すとき動作によって精神を刺激し可能なかぎり深い精神活動に近づこうとするものである。不壊の秩序を革新の坩堝に投ずる混乱の中にも静思しながら不眠の工夫よりアナキーへの接近をはかるものである。恍惚忘我の混沌より人性の最高善なる世界を創造する精神の感知に創造者の飛躍を認知する。

巨大な機械文明は、夜になったら眠るといような自然人にたいして、機械と人間の矛盾をつくりだした。もとより我が生れ育った風土には稲作を中心にした採集的自然の生活が主体であった。ヨーロッパにおいて生れた工作的文明というものがいつしか根をおろすようになってからこの風土に秋になればどこにでも見られた稲穂の波が今や灰色の舗装道路と化している。そして巨大な工業工場群が山野冷落の四季の色を変えるまでになっている。

現在の文明の魅力というものは、自分の内部に魔を飼っているようなものである。自分の内部の魔を火攻めにすることは、現代文明の兇の本質を見抜いた叛逆者の狼である。この小さな火が現代資本主義社会にむけての警火であることと我れはひとりおもふ。

## アイデア出版案内

内容

- ▶ わが生涯を生きる —抄—
- ▶ 結婚と愛
- ▶ フランシスコ・フェラーと近代学校
- ▶ P・クロボトキンの印象
- ▶ 幸徳事件 —その他—

定価送料共 750円

### 受贈書

リベロ コミュニ内部での生き方や考え方の最大公約数としての共同体を否定して個人の試行錯誤の立場からコミュニ建設にはげんでいる集団の報告。共同体運動が現在の体制内での成功でないような発展を望む。他に富士地区で個人加盟方式の組合運動をしている富士地区一般産業合同労組の状況報告。非暴力直接行動の試みの報告。日本アナキズムセンターが行なったセミナー活動の報告など。

発行所・静岡県富士宮市杉田251 竜武一郎気付 日本アナキズム研究センター。

### 原稿募集

エマ・ゴールドマン著「女性解放の悲劇」読後感想文をお送り下さい。枚数に制限はありませんが400字詰3枚程度が適当です。アイデア出版宛お寄せ下さい。採用分には薄謝を差しあげます。

### お知らせ

「らじかる」英語版ができました。御希望の方にはお分けします。定価は1号 100円、2号は 200円です。

1973年11月1日発行 編集者 櫻井 博 発行者 はしもとよしはる

発行所 東京都新宿区東大久保1-464 松喜ビル アイデア出版

郵便番号160 TEL 354-1039 振替 東京64906 年間購読料 300円